

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

文章中の「 」内は漢詩の原文である。

ある時 東阿王に
文帝、嘗て 東阿王をして七歩の中に詩を作らしめ、
漢詩ができなければ極刑にすると言った
成らざれば大法を行はんとす。① 声に①応じて便ち詩を為りて曰く、

豆を煮てそれを吸い物にし

豆を煮て持つて羹と作し、

みそをこしてそこから汁物を作る

豉を漉して以て汁と為す。

豆がらは窯の下で燃え

其は釜下に在つて燃え、

豆は釜中に在つて泣く。

もとは同じ根から生まれたのに、

本と同根より生じたるに、

どうしてそんなに厳しく煮立てるのか

相煎ること何ぞ太だ急なる、

恥じる様子があつた

と。帝深く慙づる色有り。

『世説新語』による

(注) ※文帝…魏の初代皇帝。「帝」も同じ。

※東阿王…人名。曹植。

※其…豆の実を取り出したあとの、豆がら。燃料になる。

問1 豆は釜中に在つて泣く、という読み方になるように、
「豆」^ハ在^{ツテ}釜^ニ中^ク泣^ク」に返り点をつけなさい。

問2 ① 声に①応じて とあるが、誰が誰の声に①応じているのか。次の解答
の形式に従つて、本文中の言葉を用いて書きなさい。

が の声に①応じて

問3 次に示すのは、文章についての先生とAさん、Bさんの【対話】

である。文章と【対話】を踏まえて、あとの(1)～(3)の問いに答えなさい。

【対話】

(先生) 漢詩にある、豆と豆がらは大豆の中身と皮のことで、

文帝と東阿王をたとえています。

(Aさん) 同じ根から生じるというのは、^②文帝と東阿王の関係を表しているのですね。

(Bさん) 最後に、文帝は恥ずかしく思ったとありますが、それは、文帝が ☐ X からだと思います。

(先生) そうですね。ところで、この話をもとに、日本の俳人である正岡子規^{まさおかしき}も俳句^よを詠んでいます。その俳句では、この話の中で詠まれた漢詩のことを「俳句」として捉えているんですよ。

(1) ^②文帝と東阿王の関係を表している とあるが、文帝と東阿王はどのような関係か。二人の関係を説明したものとして、最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号を書きなさい。

ア 同じ親のもとに生まれた兄弟であるが、弟の東阿王が兄の文帝の命令を聞き入れないような関係。

イ 同じ親のもとに生まれた兄弟であるが、兄の文帝が弟の東阿王に無理難題を命じるような関係。

ウ 同郷の出身で兄弟のように育ってきたが、文帝が東阿王に様々な試練を課しているような関係。

エ 同郷の出身で兄弟のように育ってきたが、東阿王が非情な文帝のことを恨んでいるような関係。

(2) ☐ X に当てはまるものとして、最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号を書きなさい。

ア ただ豆のことを詠んだ素朴な漢詩なのに、感動してしまった

イ 漢詩の内容が難しくて意味を理解することができなかった

ウ 豆という身近なものを題材にした漢詩を詠んでしまった

エ 漢詩の内容を理解し、自らの行いを振り返って反省した

(3) 次の【俳句】は、正岡子規が詠んだ俳句である。文章とこの【俳句】について説明したものとして、最も適当なものを、あとのア、エの中から一つ選び、記号を書きなさい。

【俳句】

枝豆や俳句の才子曹子建

(注) ※才子：すぐれた才能をもっている人。

※曹子建：東阿王のこと。

ア 「枝豆」は季語であり、俳句が詠まれた季節と、漢詩が詠まれた季節が同じであることがわかる。

イ 「枝豆」は季語であり、豆を煮る季節が、漢詩と俳句では異なることを面白く表現している。

ウ 「や」が切れ字であり、「枝豆」を強調し、豆から連想される曹子建の話を引き出している。

エ 「や」が切れ字であり、「俳句」を強調し、曹子建には俳句の才能もあつたことを表している。

		問 3	問 2	問 1
(3)	(2)	(1)		豆 ^ハ
				在 ^ッ
				釜
				中 ^ニ
			が	泣 ^ク

の
声
に
応
じ
て

問 3	問 2	問 1
(3) ウ	(2) エ	(1) イ
		豆 ^ハ 在 ^ニ 釜 ^ッ
		中 ^ニ 泣 ^ク
		が
		文帝
		の 声に 応じて

問2 魏の文帝が、東阿王（曹植）に七歩歩く間に漢詩を作れと命じ、できなければ極刑に処すると言っている。そこで、東阿王は「声に応じて（文帝の命令に応じて）」漢詩を作ることになる。本文中の言葉を用いて書くことに注意する。

問3 **ポイント** (1) 漢詩の五・六句目「本と同根より生じたるに、……

太だ急なる」に着目する。これは、「もとは同じ根から生まれたのに、どうしてそんなに厳しく煮立てるのか」という意味である。「もとは同じ根から生まれた」ということは、二人は同じ親から生まれた兄弟ということになる。ここで、選択肢はアかイに絞られる。また、「どうしてそんなに厳しく煮立てるのか」とは、兄が弟に、七歩歩く間に漢詩を作れというような難題をなぜ出すのかと、兄の文帝を責めているのである。よって、この説明に合うイが適當。

(2) 「慙づる」とは、反省して罪や過ちを恥じるという意味である。東阿王に急いで作らせた漢詩は、豆がらを兄の文帝、豆を自分（＝東阿王）にたとえて、無理な要求をしてくる文帝を暗に非難するものになっている。その内容を理解した文帝は、不条理な要求をした自分の行為を反省し、恥じたのである。よって、この内容に合うエが適當。

(3) 選択肢を見ると、アは、「漢詩が詠まれた季節が同じ」が不適當。漢詩が詠まれた季節は本文ではわからない。イは、「豆を煮る季節が、漢詩と俳句では異なることを面白く表現」が不適當。漢詩の「豆を煮る」は、たとえに使われている表現であり、「漢詩と俳句では異なる」かは本文ではわからない。ウは、「や」という切れ字を使うことで、「枝豆」を強調して曹子建の漢詩を連想し、その才人ぶりに感嘆している。よって、内容に合っている。エは、『俳句』を強調し「以降が不適當。『俳句』ではなく「枝豆」を強調している。また曹子建が俳句の才能があったことを表しているのではない。